CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

1-1 建物概要

建物名称	渡地区復興まちづくり支援施設	階数	1
建設地	熊本県球磨郡球磨村大字渡乙字別	構造	S造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	50 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年 / 月10日
敷地面積	8,495 ㎡	作成者	大和設計株式会社
建築面積	2,531 ㎡	確認日	2026年7月10日
延床面積	2,311 ㎡	確認者	大和設計株式会社

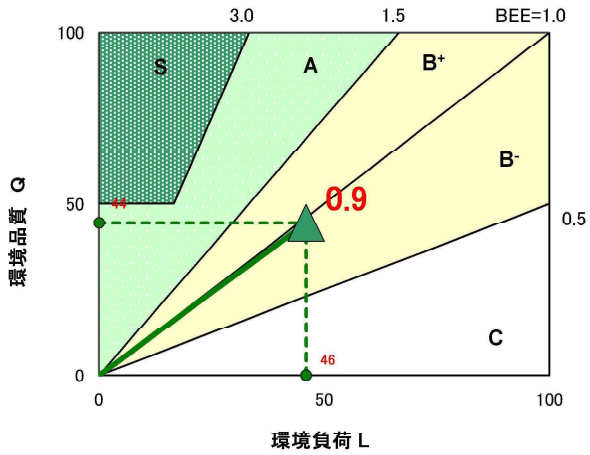
1-2 外観



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★



BEE = 0.9

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆

排出率
84%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
79

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	82.9
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	72.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	85.7
【重点事項4】 循環型社会の実現	70.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

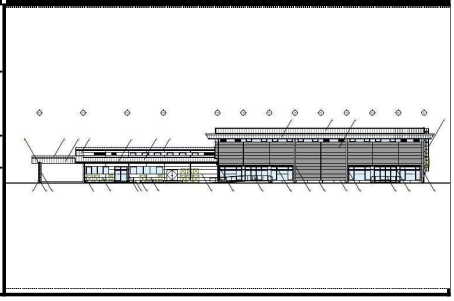
CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	渡地区復興まちづくり支援施設	階数	1
建設地	熊本県球磨郡球磨村大字渡乙字別	構造	S造
用途地域等	都計外（準都計外）	平均居住人員	50 人
省エネ：地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年（想定値）
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年7月10日
敷地面積	8,495 ㎡	作成者	大和設計株式会社
建築面積	2,531 ㎡	確認日	2026年7月10日
延床面積	2,311 ㎡	確認者	大和設計株式会社

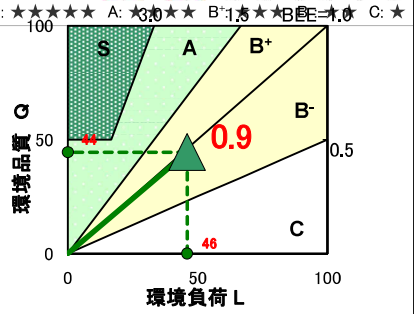
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

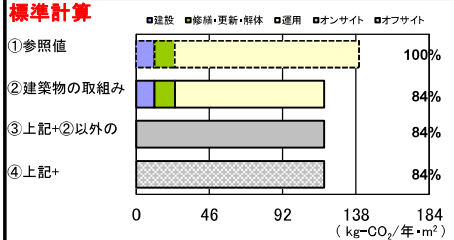
BEE =0.9

S: ★★★★★ A: ★★★ B+: ★★ BEE=1.0 C: ★



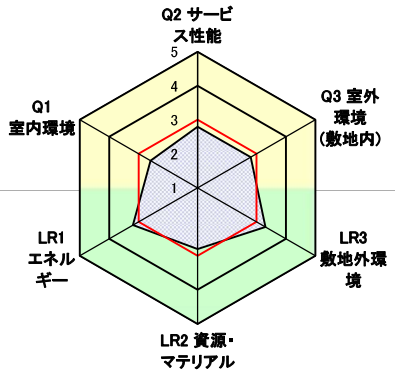
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

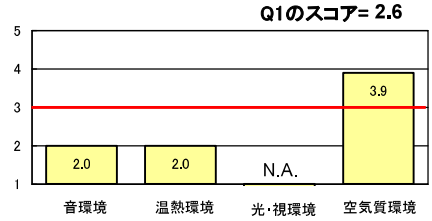
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



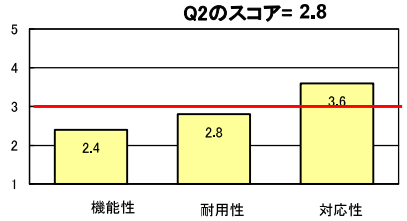
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　Q のスコア= 2.7

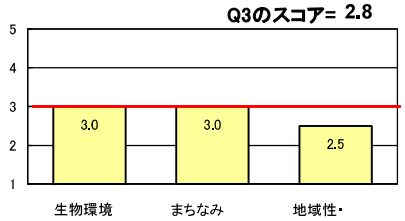
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.6



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.8

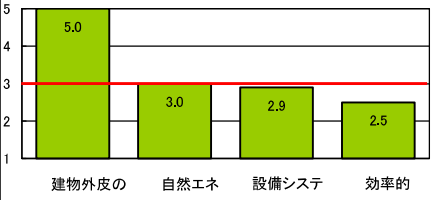


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.8

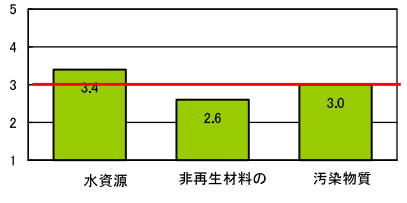


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.1

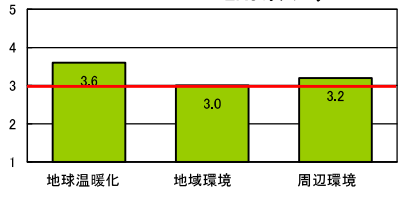
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点＝ 79

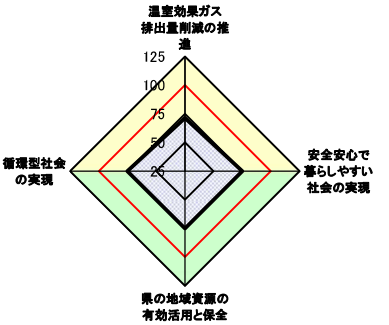
重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進　82.9

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現　72.5

重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全　85.7

重点事項4：循環型社会の実現　70.5

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
渡地区復興まちづくり支援施設

評価点が3超の項目　水色セル欄に数値やコメントを記入
⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質						2.7
Q1　室内環境			0.40		-	2.6
1 音環境		2.0	0.20	-	-	2.0
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.50	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.50	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.47	-	-	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能		-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.50	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		3.9	0.33	-	-	3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2　サービス性能		—	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.4	0.40	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	①②③⑤⑥⑧⑩⑪	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	-	-	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	5.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.1
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm：0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		省水型機器、節水コマ	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ー	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨工法（LGS）	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2：85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	1.0	-	-		
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート　※手動入力は不要	実施設計段階
建物名称	*渡地区復興まちづくり支援施設*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		79
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
	重点項目(配慮項目)	スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.9	0.40	33.16
	Q1-2.1.2　外皮性能	*0.0*	0.00			
	Q1-3.1.3　昼光利用設備	*0.0*	0.00			
	Q1-3.2.1　昼光制御	*0.0*	0.00			
	LR1-1　建物外皮の熱負荷抑制	*5.0*	0.18			
	LR1-2　自然エネルギー利用	*3.0*	0.24			
	LR1-3　設備システムの高効率化	*2.9*	0.35			
	LR2-2.1　材料使用量の削減	*2.0*	0.12			
	LR3-2.3.3　交通負荷抑制	*4.0*	0.12			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
	Q2-1.1.3　バリアフリー計画	*3.0*	0.25			
	Q2-2.1.1　耐震性	*3.0*	0.25			
	Q3-1　生物環境の保全と創出	*3.0*	0.15			
	Q3-3　地域性・アメニティへの配慮	*2.5*	0.20			
	LR3-2.2　温熱環境悪化の改善	*3.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
	Q3-2　まちなみ・景観への配慮	*3.0*	0.29			
	LR2-1.1　節水	*4.0*	0.43			
	LR2-1.2.1　雨水利用システム導入	*3.0*	0.29			
	LR2-2.5　持続可能な森林から産出された木材	*0.0*	0.00			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
	Q2-2.2　部品・部材の耐用年数	*2.8*	0.30			
	Q2-3　対応性・更新性	*3.6*	0.30			
	LR2-2.2　既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
	LR2-2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
	LR2-2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	*1.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

渡地区復興まちづくり支援施設

印刷：モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作：改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項	※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	高断熱外皮と高効率空調・照明により一次エネルギー消費量の削減を図るとともに、自然採光・自然換気を積極的に活用する計画とした。室内環境については、温熱環境・空気環境・音環境のバランスに配慮し、利用者の快適性の向上を目指している。建設段階では廃棄物の分別・リサイクルや地場材料の活用など、CASBEEの個別評価項目では評価しにくい取組も実施する計画である。
Q1 室内環境	施設利用形態は、体育館ですが、災害時には指定避難所として役割や、昨今の温暖化に伴い、高断熱外皮とLow-E複層ガラスを採用し、室内温熱環境の均一化を図った。窓位置と庇の形状を調整し、日射取得と日射遮蔽のバランスに配慮している。
Q2 サービス性能	主要動線と共用部については段差解消と自動扉を採用し、多機能トイレを配置するなど、車椅子使用者や高齢者に配慮している。災害時の避難所としての役割もあるため、アリーナ内にも充電用コンセント、TVジャック、調光可能な照明器具で計画とした。
Q3 室外環境 （敷地内）	周辺環境に調和するようになるべく建物の高さを抑えた屋根形状とし、周辺環境と調和のとれた色彩計画とし、周辺のまちなみとの調和を図っている。既存樹木のさくらも極力残し極力現状敷地の雰囲気を壊さない計画としました。
LR1 エネルギー	外皮性能の向上と高効率空調・照明により一次エネルギー消費量を削減した。
LR2 資源・マテリアル	内装材に認証木材（熊本県産材推奨）を採用し、資源保護と環境負荷低減を図っている
LR3 敷地外環境	周辺の建物高さ・屋根形状・外装色に調和するボリュームと色彩計画とし、敷地内に既存樹木を可能な限り保存し、地域景観の向上に寄与している 光害対策を図り、屋外広告物についても配慮している
その他	